



一番目立つ店舗入口近くに掲示された子どもたちのレポート

展示するなど、大きな力になってくれました。「みんなには、生まれ育った地域について理解を深め、地域の自慢ができるぐらいになってほしい

子どもたちが学び取ったこと……

学んだことを伝えよう！

学習も終盤を迎え、これまでの途中報告と情報交換のため、全員が参加して交流会を開くことになりました。「お客さんにアンケートを取ったら、盲導犬を見たことがある人は十人でした」、「聴導犬と介助犬という犬もいることが分かりました」。各グループが、これまでの学習で得た情報や発見を発表していきます。発表を聞く子どもたちも意欲的です。「アンケートは全部で何人に書いてもらったんですか」、「聴導犬って何ですか」と、矢継ぎ早に質問が飛びます。三年生を担当する菅原先生、

です。その言葉からは、将来を担う子どもたちへの期待と、地域が子どもたちの学習を支えることの大切さが伝わってきます。

後藤健先生、大牧真一先生も加わり、時間が足りなくなるほど熱の入った交流会になりました。

子どもたちの目標の一つが、最初は思うようにいかなかったオリジナル絵文字制作への再挑戦。新生に学校を案内するための、あつたか絵文字を作ることを目指しています。また、絵文字を題材にした絵本や地図の作成など、一人ひとりが、自由な表現方法で学習した成果をまとめることにしています。

学習を振り返って

総合的な学習の時間が授業に組まれるのは、小学三年生から。幌南小学校三年生の子どもたちがこの学習に取り組むのは、今回で二回目です。子どもたちが学んだことは、あつたか絵文字のことばかりではありませんでした。

この学習には、ほかの教科と違い、教科書がありません。盲導犬の役割について追究した田実麗さんは、「自分で頭の中に教科書をつくるのが楽しい」と話し



工夫を凝らした資料を手に学習成果を発表。一つのグループの発表が終わるごとに、次々と質問や意見を求める声が上がった

ます。その言葉通り、自発的に課題を見つけ、試行錯誤しながらも、自らの足で進んでいく、そんな力が子どもたちに備わってきたように思われます。そして、学んだことを多くの人に伝えたいという気持ちも育ったようです。「広報誌に載せてほしい」という願いは、その表れです。一方で、交流会などを通し、人に伝えることの難しさも経験しました。

泉澤さやかさんは、あつたか絵文字について学習することを通して、一つの夢を抱いたと教えてくれました。「盲導犬を紹介するパンフレットを作ったら、心が温かくなって、人の役に立つことをしたいと感じました。将来、私は盲導犬訓練士になりたいと思います」

今回の学習から、子どもたちはそれぞれに、大切な何かを手にしたようです。そして、子どもたちの姿から大人が教えられることも多くありました。皆さんも、自分たちの地域で子どもたちの成長を見守り、時には一緒に学ぶ、そんな機会を持つてみてはいかがでしょうか。